



ブラジル中銀の政策金利据え置きとインフレ動向

- ブラジル中銀は3月1-2日の金融政策委員会(COPOM)で、政策金利を14.25%で据え置く決定を下す。
- 市場コンセンサスでは、政策金利は2016年末まで据え置かれた後、2017年には利下げ転換が予想されている。
- 2016年以降はインフレ率は鈍化に向かう見込み。2017年末にはインフレ率は目標上限まで低下が予想される。
- ダム貯水率改善から3月以降、政府は電力料金を値下げへ。今後は、広範な品目のインフレ収束が進むかに注目。

ブラジル中銀は政策金利を14.25%で据え置き

ブラジル中央銀行は2016年3月1-2日(現地時間)の金融政策委員会(COPOM)において、市場予想通り、政策金利を14.25%で据え置く決定を下しました(図1)。

前回1月の会合と同様に、全8名のCOPOM政策委員のうち、6名が政策金利据え置きを支持した一方、2名が0.50%の利上げに投票し、政策委員間での意見が引き続き分かれる結果となりました。

政策金利は2016年末まで据え置きの公算高まる

ブラジル中銀が政策金利の据え置きを決める中、政策金利の据え置きが当面継続する公算が高まっています。ブラジル中銀集計の市場コンセンサスでは、政策金利は2016年末まで14.25%で据え置かれた後、2017年にはブラジル中銀が利下げに転じると予想されています。

2014年10月以降の一連の利上げの背景となってきたインフレ率加速の問題も、2016年以降はインフレ率の鈍化が見込まれます。市場コンセンサスでは、拡大消費者物価指数(IPCA)の伸び率は2016年末には前年比+7.6%へ、2017年末にはインフレ目標上限の前年比+6.0%へ低下すると予想されています。

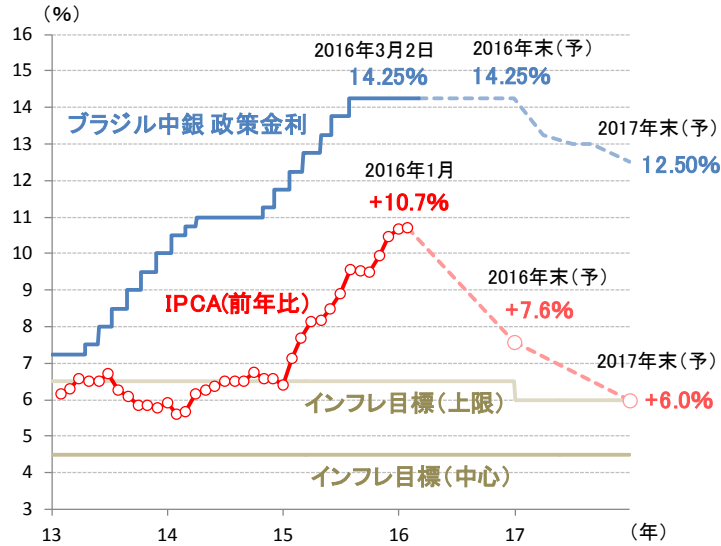
ダム貯水率の改善から電気料金は値下げへ

特に2015年にインフレ率が加速した背景として、干ばつによる電気料金の値上げが挙げられます。2015年上半期には、ダム貯水率低下により割高な火力発電所の稼働が増えたことで、電気料金は前年比5割超も上昇しました。

一方、足元では南東・中西部のダム貯水率は50%超の水準を回復し、水力発電能力が改善したことから、政府は3月以降の電気料金の値下げを公表しています(図2)。

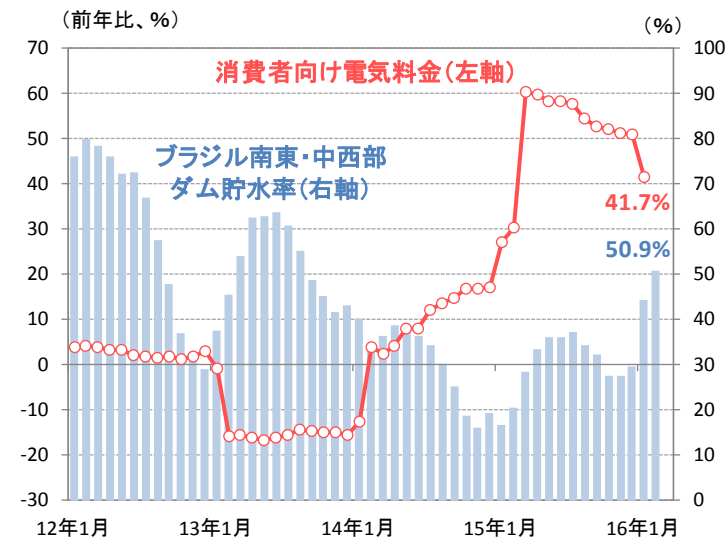
今後、ブラジルの金融政策や景気の先行きを占う上で、電気料金などの統制物価の安定がより広範な物価品目のインフレ収束に波及するかが注目されます。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)
 (期間)政策金利:2013年1月1日~2016年3月2日
 拡大消費者物価指数(IPCA):2013年1月~2016年1月
 (注)政策金利およびIPCAの点線は市場コンセンサス(2月26日時点)

図2:ブラジルのダム貯水率と電気料金



(出所)全国電力システム運営機構(ONS)、IBGE

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。